

経営比較分析表（平成28年度決算）

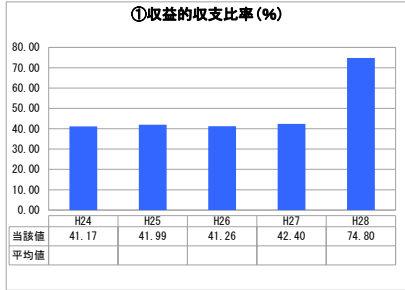
鳥取県 智頭町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	47.88	100.00	4,320

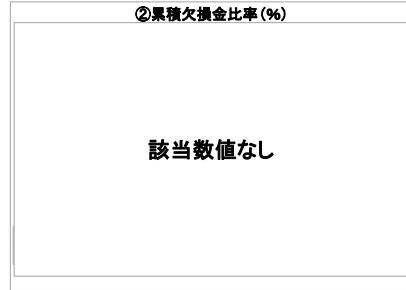
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,398	224.70	32.92
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,524	1.24	2,841.94

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

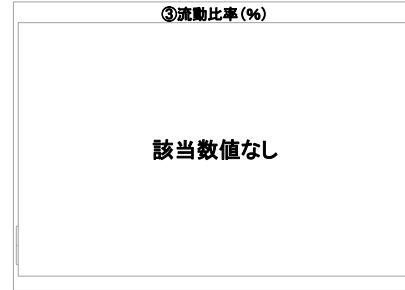
1. 経営の健全性・効率性



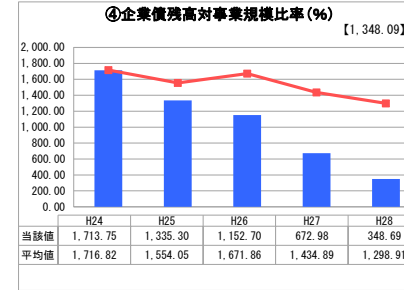
「単年度の収支」



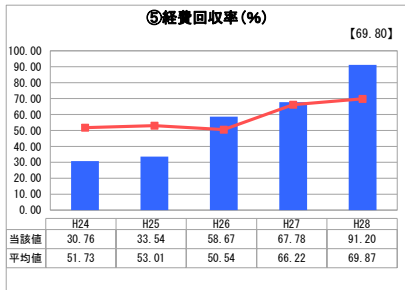
「累積欠損」



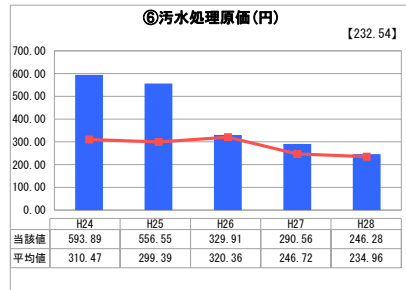
「支払能力」



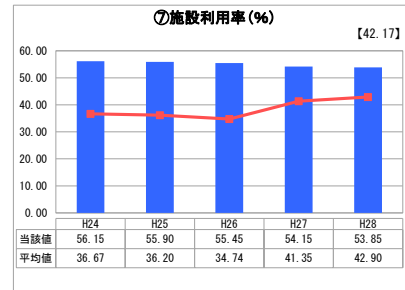
「債務残高」



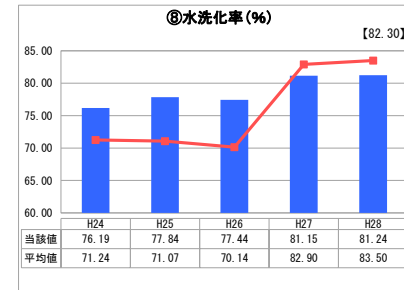
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

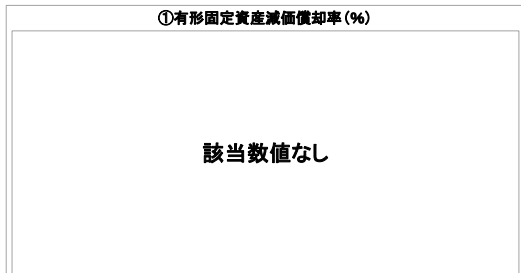


「施設の効率性」

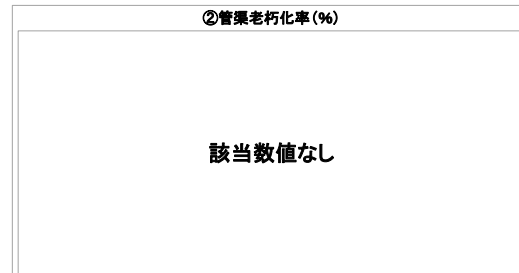


「使用料対象の捕捉」

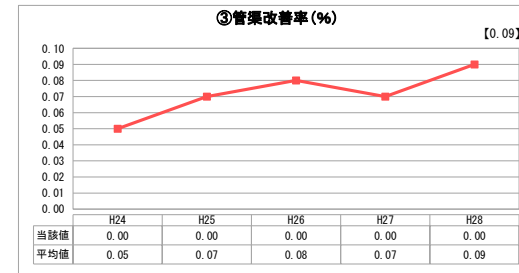
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率(①)は100%を大きく下回っており、地方債償還金が大なる負担となっている。

企業債残高対事業規模比率(④)は、公共下水道の整備が完了しているため、現在は新たな投資がなく債務残高は減少傾向となっている。

経費回収率(⑤)は昨年より大きく改善しており、類似団体よりも良い数値となっている。
 i) 例年と比較し、使用料収入・汚水処理費ともに例年と大きな差は無いが、償還金のピークは過ぎていること。
 ii) 汚水処理原価(⑥)が減少傾向にあること。以上の2点を踏まえると経費回収率は改善傾向にあるものと考えられる。

施設利用率(⑦)は、類似団体と同水準となっており、施設の効率性は標準的といえる。

2. 老朽化の状況について

平成12年に供用を開始しており、平成28年で供用開始から16年となる。
 管渠については、耐用年数に達しておらず緊急的に更新する必要が無かったが、今後は耐用年数を考慮しながら計画的な長寿命化事業を行う必要がある。また、電機機器に関しては耐用年数に達しているものもあり、計画的な更新改修が必要である。

全体総括

汚水処理費用に対して料金収入が少なく、経営は厳しい状況である。処理場建設後15年以上経過しており、今後の修繕費用も多くなると思われるので、適正な維持管理を行い、経営指標の推移に着目しながら健全な計画を目指していきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。